



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

千葉県 鴨川市立安房東中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和6年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピアンはJOCが選定
- 期間： 2024年4月～2025年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

- **オリンピック**：野藤 優貴 先生 (スキー/スノーボード)
【出場オリンピック/バンクーバー2010冬季大会】
- **期 日**：2024年6月21日(金)
- **ク ラ ス**：2年A組/運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・バンクーバー2010冬季大会にスノーボード競技で出場、種目はパラレル大回転だと自己紹介。オリンピックバリューを説明し、運動の時間は体を動かしながら一緒にオリンピックバリューを考えてほしい。ストレッチ後、体育館の4箇所ポイントに旗を置き、じゃんけんに勝った人が次のポイントに進み、負けたらスタート地点に戻るゲームを実施。制限時間40秒で何人が最後のポイントに進めるかを競う。

○主運動等



・主運動は8の字跳びを実施(全2回)。2つの班を合わせ2チームを作る。8の字を描くように左右から跳び、90秒間に跳んだ回数を競う。途中で縄に引っ掛かっても続けて数える。途中作戦タイムを設け、回数を増やす工夫や上手く跳ぶ方法を考える。跳ぶタイミングを友達同士で教え合うことや、縄の長さを工夫することをアドバイスする。慣れてくると怖がらずに縄に入ることができるようになり、各チームが大幅に回数を増やすことができた。



・運動の時間を振り返り、1回目より2回目の方が、思い切って縄に入れるようになり、チームの仲間と声掛けがよくできていた。縄の持ち方を工夫する等皆で考えたことや、苦手だと思ふ気持ちを抑え、一生懸命取り組んでくれた。そのことは全てオリンピックバリューにつながる。座学では、運動の時間に感じたことをオリンピックバリューに当てはめ、その意味をより深く理解できるように皆で考える時間にしたいと話し、授業終了。

- **オリンピック**：野藤 優貴 先生（スキー／スノーボード）
【出場オリンピック／バンクーバー2010冬季大会】
- **期 日**：2024年6月21日（金）
- **ク ラ ス**：2年A組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・競技映像を見ながら自己紹介。現在はスノーボード競技のコーチとして、オリンピックを目指す選手を指導している。スノーボード競技を見たことがあるかを尋ね、数名の生徒が手を挙げる。現役時代、強くなるためにヨーロッパに渡り現地のチームと一緒に練習を積んだ。その時の仲間も現在はコーチとなり、遠征先のホテルや雪の状況等の情報交換を今でもしている。共に競い合った仲間と今でも助け合いながら仕事ができ、信頼し合える仲間がいることに感謝している。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間にできたこと、意識したことをオリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「一生懸命跳んだ」「普段より大きな声を出せた」「全力で取り組むことができた」「諦めずに跳んだ」等
フレンドシップ：「アドバイスをした」「縄に入るタイミングで友達の背中を押してあげた」「苦手な友達を責めない」等
リスペクト：「縄を回してくれた人に感謝」「勝っても負けても相手に拍手をした」「些細な事にも感謝したい」等



・座学の時間を振り返り、皆が日常生活の中で自然に取り組んでいることがオリンピックバリューにつながっている。オリンピックバリューはオリンピックだけのものではないことを理解できたと思う。これからの人生で上手いことや嫌なことを経験することは誰にでもある。しかしそれにも必ず意味があると思ってほしい。今日学んだことを、今後の中学校生活や高校生活、進路で悩んだ時等に役に立て、人と人のつながりを大切にしてほしいと話し、授業終了。

■集合写真

・2年A組



■記念品贈呈

・2年A組



■修了証贈呈

